

10th
Anniversary

設立 1 0 周年記念誌

平成 2 7 年 3 月 吉 日



目次

設立の経緯	3
ご挨拶	4
ADAPTEXのあゆみ	5
ADAPTEXの挑戦	6
ADAPTEXのこだわり	7
お客様の声	8
10年の到達点	10
これからのVISION	11

設立の経緯

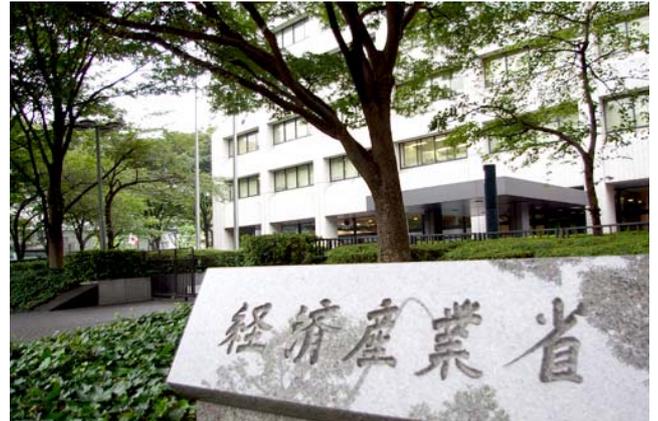
設立年にあたる2005年当時、国内は絶え間ないイノベーションが国力維持の源であるとの観点から、経済産業省によって「大学発ベンチャー1,000社計画」が発表されました。国内の大学においては、大学発ベンチャーの機運が一気に高まり、広島大学においても同様に、商業性のあるシーズをベンチャー企業として展開する号令が掛かりました。

時を同じくし、国内の装置産業、とりわけ石油業界においては、国内需要がピークアウトするという転換期を迎えていました。高度成長期、自動車の普及といった時代から、省資源省エネ化というトレンドが更なる加速を始めたのがこの時期でした。

最大生産から省コスト高効率生産の時代に突入したのです。

当社は、この大学初ベンチャー設立の機運と、装置産業の転換期という2つの側面から、2005年1月21日に広島大学・山本透教授（現当社非常勤取締役）を始めとする4名を発起人として設立されました。

まさに、これまで日本の成長を牽引してきた装置産業の競争力を更に強固なものにするという、大きな社会的意義を掲げて設立に至りました。



山本透研究グループは20年以上に亘って、石油精製、石油化学、製鉄等の分野で、プラントの高効率運転や品質向上、省エネ化、安全化を目的として、あらゆる制御対象に対して高性能な制御性能を実現する制御器の開発を進めてきました。

共同研究はもちろんのこと、学会においてもその革新性から進歩賞や技術賞を受賞するなど、産学からその功績を認められ始める中、この技術を世の中に実際に商業ベースで展開する挑戦が「ADAPTEX」を通じて始められたのです。

ご挨拶



ADAPTEX株式会社
代表取締役社長 小比賀 理延

平素より弊社をご愛顧頂きまして誠にありがとうございます。
弊社は平成17年1月に設立以来、おかげ様を持ちまして10周年を迎えることができました。
装置産業への貢献を通じて社会貢献をすること、そして国力の源泉であるイノベーションを増進するという大きな志を胸に設立をした訳ですが、何よりもお客様に支えられ、そしてご指導頂いた10年であったと回顧しております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。
特許性があり、技術的に高度で付加価値がありつつも、確固たる信頼性を持つ技術をお客様にご提供することを第一の目標に日々の業務を行っております。この中で、多くの先進的課題をご提供頂いたお客様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

制御事業を弊社の基調としながらも、その前段にある計画業務を最適化する技術ソリューションを提供する最適化システム事業、そして溢れるデータからキー情報を抽出し可視化するビッグデータ事業、最後に途上国や国内企業における人材育成をサポートする教育開発事業を一体的に推進し、お客様の業務・生産革新をサポートさせて頂いております。
今後も更なる技術革新とサポート体制の確立、そして明確なサービス内容の充実化を図り、お客様の操業改善のサポートを続けて参りたいと一同気を引き締めなおしております。

一方で、大学発ベンチャー企業ということで、アントレプレナーシップについても一言申し添えておきたいと思っております。これまで極めて多数の大学発ベンチャーが設立されて参りましたが、近年においてはその設立数が減少気味であるという調査結果が発表されています。
大学発ベンチャーは、大学に眠る潜在価値の高いシーズを世の中に投げ込む、極めて重要な役割を担っているものと確信しています。
今一度、起業の機会に恵まれる方々には、リスクを顧みず共にチャレンジさせて頂きたいと強く念じております。また、関係する支援機関の方々におかれましては、短期ではなく中長期的な成長を視野に入れ、若いベンチャー起業の数々を成長に導いて頂きたく、切にお願い申し上げます。

今後も、ベンチャースピリット(=挑戦する気持ち)を忘れず、大学や関係機関、また何よりもお客様と二人三脚で困難な技術課題にもチャレンジさせて頂き、技術立国日本の一翼を担う精神で、事業拡大を目指して参りたいと存じます。

末筆ながら、ステークホルダーの皆様におかれましては、今後共倍旧のお力添えとご指導を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

ADAPTEXのあゆみ

ADAPTEX(アダプテックス)株式会社は、平成17年1月に産学連携で培われた装置産業における**先進制御・最適化・ビッグデータ解析技術**を産業界へ広く還元する為に設立された技術オリエンテッドベンチャー企業です。

HISTORY

1983
大学研究室の一室から現場の制御に主眼を置いた実践向けの高度制御技術開発に着手

1994
石油、製鉄、石化の装置産業で技術の効果を確認

2005
中小機構のスタートアップ事業に選定され資本金300万円で**ADAPTEX社設立**

2006
制御性能評価と制御設計を統合した**世界初の技術を確立**

2009
資本金を1,700万円に増資

2010
装置産業における制御性能改善による省エネ化サービスが**ひろしまベンチャー大賞受賞**

2011
教育開発を主として東南アジアや中東での海外事業を開始
資本金を4,700万円に増資

2012
Ernst & Young(新日本有限責任監査法人)
Entrepreneur Of The Year JAPAN 2012
セミファイナリスト

2013
ビッグデータ解析サービスを開始
三菱UFJ技術育成財団により生産最適化技術開発PJが採択



大学研究室においてはその顕著な功績が讃えられ数々の学会賞を受賞



海外事業の先駆けとしてイラク石油公社を広島へ招き技術協力を促進



EOY2012にて中四国地区代表として行政機関や銀行から推薦され日本選抜セミファイナリストとなった

ADAPTEXの挑戦

ADAPTEXは更なる事業拡大を目指し、
技術革新・新たなるフィールドへのチャレンジ・知識と技の融合
の3つを挑戦する柱として掲げています。

すべては、**お客様の満足と社会のために。**

「ベンチャー」それは、危険な企てを意味する。
新たな真に価値のあるモノやコトを興すには、古きを壊し、そして超越しなければならない。

それは、技術の壁だけではなく、人の習慣かもしれない。社会の文化かもしれない。

ベンチャーの使命であり醍醐味である「挑戦」は、とても平坦でクリアな視界の中にはない。

限られた資本や人で挑戦し、お客様の信頼を勝ち得るには、
自己の技術への自負と誠実にお客様に向き合う姿、この2つしかあり得ない。

あせらず、あきらめず、しっかりと前を見据えチャレンジするADAPTEXが今も未来も続く。

我々は「挑戦者」なのだ。



明日への挑戦

ADAPTEXのこだわり

ADAPTEXは、高度制御技術や最適化システム、ビッグデータ解析技術をすべて社内及び提携する大学で開発しています。

最新の技術情報を収集しつつも、本当に良いと思える技術を、自分たちの手で創出しています。

だからこそ、自己の技術への強い自負が芽生え、適用シーンにおいても微細な環境条件を加味しつつ効果を最大化させる形で技術をお客様へ提供することができるのです。

最新の技術を取り入れたシステム開発においても、ユーザビリティ等を考慮し、既存コンポーネントで不足するものは、自分たちの手でコンポーネントまで作成し、ユーザーの満足度を最大化させます。

ADAPTEXの手がけるプロジェクトの数々は、大半がこの世にないソリューションを開発することです。最新の技術を用いながら、お客様の個別の課題を解決するために応用開発を行います。

この中で未解決問題に挑むことも少なくありません。ADAPTEXは、未解決問題に対してもお客様の課題を解決するために、それらの問題に真正面から向き合うことを続けています。

未解決問題とも言える難題に立ち向かうことを継続することで、あらゆる問題に対する知見が集積され、また新たなイノベーションへとつながって行きます。各ユーザー様との個別の知見が、当社において融合され、新たな価値をお客様にご提供することができます。

お客様の持たれる個別の課題を積極的に解決する姿勢を保ち続けることが当社の“こだわり”なのです。



お客様の声

このたび御社創業10周年を迎えられましたこと、心からお祝いを申し上げます。これも、小比賀代表取締役はじめ技術力を基盤としたスタッフの方々のご尽力の賜物と拝察申し上げます。

御社とは5年に渡り、石油製品を運搬するタンカーの最適配船システムを共同開発させて頂いております。弊社がオペレートしているはタンカー50隻あり、変動する需要や気象など中で最適化を図るには労力と経験をもとに行っておりました。今回御社ご協力により効率的かつ最適な配船スケジュールを立案するシステム開発に至りました。実用化にはまだ改善が必要ですが今後ともご協力賜ようお願い申し上げます。

今後のADAPTEX株式会社の益々の御発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



出光興産株式会社
国際需給部需給課
課長 古賀 英明 様



太平洋セメント株式会社
設備部システム技術Gr
Grリーダー 香月 毅 様

設立10周年おめでとうございます。貴社とは、数年前、PIDパラメータの最適チューニングをお願いしたことが最初だったと思います。その結果、チューニングの方向性に関して、専門的な裏づけを得ることができ、以後、自信を持って推進する力となりました。また、現在共同で取り組んでいるテーマに関しても、先進的な知見が形成されつつあり、成果を大いに期待しているところです。

貴社の強みは技術に対する探究心の強さにあると思います。これまでまるで馴染みのない分野であっても、実直に自分のものにしようとする姿勢にはいつも驚かされています。

これからも専門家として真摯な立場を貫かれ、益々躍進されますよう心より応援しております。

お客様の声

創立10周年おめでとうございます。よく『継続は力なり』と申しますが、10年事業を継続できるベンチャー企業は非常に限られていると聞いております。この点、貴社の事業をここまで推進あるいは支援されてこられた方々のご苦労は、並大抵ではなかったと推察致します。

貴社のアドバンス制御技術の優秀さは、弊社との協業の中で十分認識しており、今後もこの技術の普及に邁進頂き、業界発展に大いに寄与されんことを願ってやみません。

私事ながら、小職は今年マレーシアに活動場所を移しますが、東南アジアに貴社の最新技術を移植するため、微力ながら協力させて頂く所存です。

最後に、貴社並びに関係各位の益々のご発展を祈念申し上げます。



千代田化工建設株式会社
ChAS事業本部
コンサルタント 山本 哲夫 様



東電設計株式会社
営業本部
部長 小島 美知男 様

設立10周年、誠におめでとうございます。昨年、小比賀社長のプレゼンを見た瞬間、“閃き”が起こりました。エネルギーの現状を”見える化””最適な制御”“ビッグデータの活用等”そのゴールは省エネ！その先はコストダウン！と。これは活けると直感しました。

現在の産業界は、エネルギー供給価格(電気・ガス等)の高騰で苦慮しています。最大の課題は、コストダウン・省エネです。ADAPTEX社は、この課題を解決することが出来る制御技術を保有しているオンリーワン企業です。このことは、持続可能な社会に向けて、かけがいのない企業であります。

制御・最適化システム・教育開発の各事業を柱にエポックメーカーとして更なる飛躍を期待しております。

(抜粋・社名五十音順)

10年の到達点

ADAPTEXはこの10年間の創業期で、お客様から多くのことを学びました。

何よりもお客様とface to faceで仕事を取り組む大切さを知りました。実は、創業からはじめの6年間あたりはシステムやソフト作りに精を出した時期でもありましたが、逆にあまりお客様と意見を積極的に交わすことはありませんでした。技術の提供方法においても、例えば制御解析ソフトウェアを構築し、プロダクトアウト型で販売する形式を採用していました。すなわち「売る」という行為に徹していたことから、お客様の課題をヒアリングするというシーンすらあまりありませんでした。

6年目を過ぎたあたりから、「本当にこのスタイルで良いのだろうか」と社内でも自問自答するようになりました。次のソフトウェアのバージョンアップに際して、実はほとんどお客様の課題を聞いていなかったため、最も重要な「お客様の声」というものを反映することすらできなかったのです。

技術の革新は、本当の現場での課題を抽出し、それを解決していく中で起こるものだということに気づいていなかったのかもしれない。

社内においても、再度会社のあり方について議論を重ね、その結果ソフト売りの形はやめ、少なくともソフトウェアを販売するにしてもコンサルティングを併用する形へと転換しました。

その結果、それまではまったく知りもしなかったお客様の課題や悩みに接するようになり、ある意味それからの当社のR&Dは大きく方向性が変わってきました。

自分たちが発想して良いと思うものを作るというスタイルから、お客様の課題を解決するスタイルへと変貌していきました。ビジネスとしては、一品一様となり正しいとは言いきれませんが、イノベーションに最も重要なお客様の声をダイレクトに聞くことができる現在のスタイルを採用したわけです。

昨今においては、時には技術的な側面においてお客様と激しい議論をかわすことも稀ではありません。単なる受注業務に終わることなく、本当にお客様にとって良いと思えるモノを情熱をもって提案するスタイルが当社には定着しつつあります。

10年かけて築き上げたこのスタイルをこれからも大切に、お客様と一緒にイノベーションと挑戦を継続して参ります。



これからのVISION

ADAPTEXは20周年を目指して、以下の取り組みを推進して参ります。

営業拠点の拡充

お客様との更なる連携を強化し、またアフターフォローの迅速化を目的に、国内の主要箇所への営業拠点配備を進めて参りたいと考えています。また、協力会社をより多く構築し、お客様のご要望に迅速に、そして手厚く対応できる仕組みづくりを進めて参りたいと考えています。

製品化の促進

当社には体系化され見える形に加工されていない技術が多くあります。いわゆるノウハウや知恵と呼ばれるものです。これをコンサルティングや受注案件のみならず、プロダクトアウト型でお客様へご提供できるように分かりやすいシステムやソフトとして製品化を検討して参りたいと考えています。

人材ソリューション

コンサルティングやモノだけを媒体としてお客様の支援をするのではなく、当社の知見や知識をもった人材(人財)をアウトソーシングすることで、お客様における業務効率の一層の改善をご提供して参りたいと考えています。

技術の体系化

これまで開発された技術や、さらには検討の末具現化されてはいないが将来有望な技術、こういった数々の技術を改めて体系化し、お客様にも理解のしやすい形へと編纂を進めて参りたいと考えています。この結果、知的財産として適正な管理を行い、あらゆる関係者に広く利用頂ける環境を整えて参ります。

海外への更なる挑戦

従来のおり国内での事業化はさることながら、海外への展開も中長期的に増進して参りたいと考えています。とりわけ地球温暖化の課題は、日本国内だけで解決できることではなく、当社のもつ環境負荷低減を実現する技術を世界で活用頂き、微力ながら地球環境改善への貢献を続けて参りたいと考えています。

会社情報

平成27年1月現在

項目	内容
社名	ADAPTEX株式会社(アダプテックス)
設立	平成17年1月21日
本店	広島県東広島市鏡山3-13-60
拠点	営業拠点 東京 研究開発拠点 広島
資本金	4,700万円
内容分野	内容 1. 制御システムの開発販売、及び制御に関するコンサル 2. 最適化システムの開発販売、及び最適化に関するコンサル 3. ビッグデータに対する解析技術の開発販売、及びこれに関するコンサル 4. 教育開発、及び教育に関するコンサル 分野/領域 石油精製、石油化学、製鉄、セメント、紙パルプ、電力、船舶、自動車、学校、農業等の分野